

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 3 区分

【発行日】令和 2 年 2 月 13 日 (2020.2.13)

【公開番号】特開 2018-120376 (P2018-120376A)

【公開日】平成 30 年 8 月 2 日 (2018.8.2)

【年通号数】公開・登録公報 2018-029

【出願番号】特願 2017-10752 (P2017-10752)

【国際特許分類】

G 0 6 F 3/06 (2006.01)

G 0 6 F 12/12 (2016.01)

G 0 6 F 12/08 (2016.01)

G 0 6 F 3/08 (2006.01)

【F I】

G 0 6 F 3/06 3 0 1 J

G 0 6 F 12/12 5 5 3

G 0 6 F 12/08 5 7 9

G 0 6 F 3/08 H

G 0 6 F 3/06 3 0 6 Z

G 0 6 F 3/06

【手続補正書】

【提出日】令和 1 年 12 月 27 日 (2019.12.27)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

情報処理装置であって、

実記憶領域からデータを退避させるための補助記憶領域が定義された不揮発性記憶手段と、

情報処理装置が第一の電力状態から第一の電力状態より消費電力が少ない第二の電力状態へ遷移することに基づいて、前記補助記憶領域へ前記実記憶領域からデータを退避させるための前記不揮発性記憶手段へのアクセス頻度を、前記第一の電力状態における前記不揮発性記憶手段へのアクセス頻度へのアクセス頻度よりも低減させる制御手段を備える情報処理装置。

【請求項 2】

情報処理装置であって、

人感センサ手段と、

実記憶領域からデータを退避させるための補助記憶領域が定義された不揮発性記憶手段と、

人感センサ手段の検知結果に基づいて、前記補助記憶領域へ前記実記憶領域からデータを退避させるための前記不揮発性記憶手段へのアクセス頻度を所定の頻度以下に低減させる制御手段を備える情報処理装置。

【請求項 3】

前記制御手段は、前記不揮発性記憶手段の電源をオフすることで、前記補助記憶領域がアクセスされることを制限する請求項 1 又は 2 に記載の情報処理装置。

【請求項 4】

前記不揮発性記憶手段は、不揮発性のフラッシュメモリを含み、前記フラッシュメモリに対する所定時間における総書き込み容量が前記フラッシュメモリの寿命に依存する所定の値以下になるように、前記制御手段は前記不揮発性記憶手段へのアクセス頻度を制限する請求項 1 乃至 3 のいずれか 1 項に記載の情報処理装置。

【請求項 5】

前記不揮発性記憶手段は、ハードディスクドライブを含み、
前記制御手段は、前記ハードディスクドライブに対する読み書き処理のデューティ比率に基づいて、前記不揮発性記憶手段へのアクセス頻度を制限する請求項 1 乃至 4 のいずれか 1 項に記載の情報処理装置。

【請求項 6】

前記制御手段は、前記ハードディスクドライブに対する読み書き処理のデューティ比率が二十パーセント以下になるように、前記不揮発性記憶手段へのアクセス頻度を制限する請求項 5 に記載の情報処理装置。

【請求項 7】

前記制御手段は、オペレーティングシステムにより制御されるものであり、前記オペレーティングシステムに対して指示されるスワップ頻度を制御するためのコマンドに基づいて前記アクセス頻度の制限を行う請求項 1 乃至 6 のいずれか 1 項に記載の情報処理装置。

【請求項 8】

人を検知する人感センサを有し、
前記人感センサによる検知結果に基づいて、前記情報処理装置が第二の電力状態から前記第一の電力状態に遷移することを特徴とする請求項 1 に記載の情報処理装置。

【請求項 9】

前記頻度は、前記実記憶領域から前記補助記憶領域へデータを退避させやすさを指定するパラメータの大きさによって決まることを特徴とする請求項 1 乃至 8 のいずれか 1 項に記載の情報処理装置。

【請求項 10】

実記憶領域からデータを退避させるための補助記憶領域が定義された不揮発性記憶手段を有する情報処理装置で実行される制御方法であって、

前記情報処理装置が第一の電力状態から、第一の電力状態より消費電力が少ない第二の電力状態へ遷移することに基づいて、前記補助記憶領域へ前記実記憶領域からデータを退避させるための前記不揮発性記憶手段へのアクセス頻度を、前記第一の電力状態における前記不揮発性記憶手段へのアクセス頻度から低減させる制御ステップを有する制御方法。

【請求項 11】

実記憶領域からデータを退避させるための補助記憶領域が定義された不揮発性記憶手段と人感センサ手段を有する情報処理装置で実行される制御方法であって、

前記人感センサ手段の検知結果に基づいて、前記実記憶領域から前記補助記憶領域へデータを退避させる前記不揮発性記憶手段へのアクセス頻度を、所定の頻度以下に低減させる制御工程を有する制御方法。